

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第106号 2015.3.7(土)発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET+

ご卒業おめでとうございます。

教職教育センター 所長 角野茂樹

4回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私たち教職員にとっても、皆さんが巣立っていくことに感慨深いこの春を迎えています。

2回生の時に「教育制度論」で見かけた初々しい姿、3回生の「生徒指導論」で教育問題に向き合ったグループ討議での白熱した議論、また「言語研究特別講義」で教育時事に真摯に向き合い自らの解を求めている姿、どれも昨日のことのように覚えています。また教採合宿では、先輩教員にサポートされ教員としての意欲を高め、夏のサマースペシャルでは、堂々と模擬授業を披露していた姿はたくましく映っていました。

教職の世界に飛び込んでいく皆さんにとっては、これまでの経験や学びの成果をもって学校現場という生身の児童生徒と向き合う場で「職業」として実践していくこととなります。きっと喜びと不安が入り混じりながらも、やる気に燃えていることでしょう。

今、学校現場では、児童生徒に寄り添い使命感と情熱にあふれる若い教師に対する期待が大きいです。教材研究をしっかりと授業に向き合い自分の持てるチカラを引き出してください。日々の積み重ねが少しずつ教師としての力量を高めていくことでしょう。

教育の世界に「変容」という言葉があります。このことの意味は、教師の熱のこもった継続的な指導によって「子どもが良い方向に変わる」ということで、「子どもの自律しようとする姿」の表れを受け留めることができるようになるということです。その時、教師は指導者となります。

4月1日は、教師になる目的を実現しようとするスタートの日です。どんな教師になるのか、教師になって何をしたいのかを今一度思い起こし、自らの人生のロードマップを描き自己実現へとひたすら走り続けてください。

「明日に向けてごきげんよう」

英語キャリア学部 教授 岡澤潤次

ご卒業おめでとうございます。

「百尾の魚を与えるより一尾の魚の獲り方を与えよ」という古い諺があります。即ち、「学び方」を学ぶことの大切さを謳っています。大学を卒業するまで学んだ知識・技能は「礎」として重要ですが、今では教育の目的は単に知識を覚えることではなく、知識を組み合わせることで新たな知識を創造することが求められています。

私たちには多様な未知が待っています。これからの様々な経験をうまく活用することが肝要です。グローバル化と言われ既に久しく、これが急速に、私たちの身近な生活に一層影響してくるでしょう。例えば、昨今の国際的な「テロ」事件だって他人ごとではありません。現実には多くの困難に遭遇すると思いますが、持ち前のファイティングスピリットで乗り切ってください。

子どもたちをいかに素晴らしい人間に育てるか、至福にさせるかが私たちの永遠の使命だと自覚を深め、これからの人生をたくましく歩んでください。

お元気でまたお会いしましょう。これからの人生に幸あれ。

「新しい世界へ」

英語キャリア学部 教授 落合清茂

卒業おめでとうございます。みなさんそれぞれが充実した学生生活であったことだろうと思います。4年間、あるいはそれ以上の人生で、勉学だけでなく、クラブやアルバイト、ボランティア、就活など、さまざまな実践を通して、自分を鍛え、人から学び、現実の社会を垣間見て、将来の希望や働くことの意味など、大いに悩み考えたことだろうと思います。そして今、新しい世界へ旅立とうとしています。

旅立つには力が要ります。この4年間で学んだすべてのこと、そしてこれからも謙虚に学び続けることが、みなさんの血となり肉となりエネルギーとなって希望への道へと誘います。何か困難や課題に遭遇したとき、自分を信じましょう。頑張った自分を、頑張れる自分を、そして大切な仲間、友人を、家族を。これらすべてが大きな力となって、あなたの未来を切り開くことでしょ。心と体を大切に、よい人生でありますように。

「夢のその先」

英語キャリア学部 准教授 黒田秀子

ご卒業おめでとうございます。

4年間の大学生活において自分の目指す将来像に向けて、努力を重ねてきたことと思います。4月

から教員としての第一歩を踏み出される皆さんにとって、まずは1つ目の夢の実現に、成就感、達成感で満たされていることでしょう。

皆さんが思い描いた夢の実現は、ゴールでもあり、また、新しい夢へ向けてのスタートでもあります。教員生活において、次はどのような夢や希望を抱くことができるでしょうか。夢や希望を持つことは、自己を高めていくためには大切なことです。夢は、しだいに具体的な目標へ変化し、日々の努力へと繋がっていきます。前へ前へと歩み続けるために、目標を自覚し、努力を自信に変えて、持てる力の発揮伸長を期待しています。

「新しい時代、新しい社会を動かす若い世代を育てるために」

英語キャリア学部 教授 小寺正一

卒業おめでとうございます。大学での学びをもとに、皆さん方が、教職をはじめ教育に関するいろいろな分野で活躍をされることを期待しています。

これからの時代には、基礎的・基本的な知識や技能の習得と、自分で進んで学び考え課題に取り組み力の育成の両方を総合的に展開することが求められています。習得型の教育と探究型の教育の総合です。

現代は社会の変化が激しい。次々と新しいものが登場する。だれもが、これまで経験したことのない社会状況を切り開いていく必要があるのです。だから、学校教育においても、基礎的・基本的な知識や技能をしっかりと習得するとともに、絶えず新しい知識や技能も学び続け、それらを使って社会の課題に取り組む主体的な課題解決能力を鍛えることが重要になっています。探究力や課題解決能力を鍛える時代になったととらえるべきでしょう。

新しい時代を切り開いていける力の育成をこれからの教育は求められます。とすれば、教師も知識量を誇るだけでなく、自から進んで学び考え課題に取り組み力を高める必要があると思われる。日々の生活でも、与えられるものだけに満足せず、先を見通し、必要な情報を集め、それらを使いこなして課題を解決する力を高める努力を続け、新しい時代、新しい社会を動かす次の若い世代を育てていただくことを期待しています。

「ご卒業おめでとうございます」

英語キャリア学部 准教授 森田健宏

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

教員採用試験に合格した皆さんも、もう少しだけ力を蓄えてからぜひ来てくださいと告げられた皆さんも、教師の夢を追い続けた四年間、本当に立派だったと思います。

私の分野からは、言葉の力と大切さ、そして、しっかりとしたシミュレーションをする大切さを、これからの皆さんに求めたいと思います。「教育相談」を受講した皆さんは、最後の筆記試験が、シミュレーション課題であったことを覚えてくれていると思います。試験は、もちろん、みなさんの学習成果

を測るためのものではあるのですが、実はその問題の中に私からの願いを込めていました。それは、教師が発する言葉の1つ1つは本当に重いものなので、よく考えて、丁寧に言葉を発して欲しいということです。みなさんの中にも、子ども時代に「先生が私に言ってくれた言葉がきっかけで、がんばることができたよ」とか、「先生に叱られたときの、あの一言は今でも自分への戒めになっているよ」とか、過去の先生の言葉がずっと自分の中に残っているという人が多いと想います。それだけ、教師が発する言葉は影響力が大きいのです。今度は、みなさんが子ども達や保護者の方に、そのような言葉を伝える立場になるのです。ですから、自分の言葉が相手にどのように受け止められるのだろうか、その言葉は相手の成長や問題解決に役立つのだろうか、など、状況をシミュレーションしながら、きちんと考えて言葉を発してほしいと思います。言葉は人を勇気づけることもあれば、人を傷つけるものにもなります。みなさんは、この関西外国語大学で「言葉」を専門に勉強してきたはずですから、「言葉の力」をよくわかっていると信じています。みなさんの言葉で、子ども達や保護者の方を明るく前向きな方向へ導くことができるよう、ぜひ、がんばってください。

「卒業する学生諸君に」

英語キャリア学部 教授 渡邊一郎

卒業していく学生諸君に、心から祝福の拍手をおくります。
毎年、この時期になると思い出す言葉があります。

「年年歳歳 花相似 歳歳年年 人不同」 （劉廷芝
「代悲白頭翁」の一節）

毎年学生を送り出す仕事をしていると、春は別れの季節という思いが一入強く、この一節が、原詩とは異なる意味合いを持って感じられるのです。

一時、国際化の流れの中で、日本の学校でも入学の時期を9月にすることを真剣に考えようとする動きがありました。しかし、桜の花びらがハラハラと舞う季節が、日本の学校の入学式には相応しいとの意見が多数を占めたようだと聞きました。

卒業式の時期は、1か月程早いので、梅の時期とも言えます。つい先日、久方振りに長浜の盆梅展を見に行きました。樹齢400年の「不老」と名付けられた紅梅の古木の圧倒的な迫力に息をのみました。学問の神様との縁も、白梅の香りも捨てがたいものがある、桜ばかりが花ではないと改めて思ったことでした。いずれにしても、梅、桃、桜と春を彩る花々が咲き乱れる時に、次を期して別れを体験することは感慨深いものではありません。

更なる飛躍を求めて新しい道に踏み出す諸君の前途に幸多からんこと祈ります。



「卒業されるみなさんへ、そして在学生のみなさんへ」

外国語学部 教授 並松善秋

4月から晴れて英語科教員になる人、捲土重来を期して教員の道をめざす人、教員志望の在学生、みなそれぞれに、今の時代に教員に求められている英語力・コミュニケーション力を十分に身に付けると同時に、英検準1級以上取得や TOEFL (iBT)、TOEIC の高得点をできるだけ早い機会に獲得していただきたいと思います。英語教師の世界に入る「パスポート」として「資格・検定試験」が扱われているなか、早々と最低限の関門は通過して、自分が理想とする英語教育実践や種々の教育活動のために、持てる力を注ぐことをお勧めします。目に見える形の英語力も蓄えて、生徒や児童たちに堂々とぶつかっていききたいものです。それは途中少々の困難にぶつかっても、実に「やりがいのある仕事」です。

関西外大の誇りの一つは、日本中に多数の英語科教員を輩出していることです。教師には常に研鑽が必要です。これは生涯を通じて求められます。勇気をもってわが国の「英語教育改善」の先頭に立って欲しいと思います。先輩、同輩、後輩たちが心を合わせ、手をつなぎ、それぞれの教育の場で、協働して前進していただきたいと願っています。

「誠実に、継続」。その前提に「健康のために時々リラックス」・・・「贈る言葉」です。卒業生、在学生を問わず、悩んだ時には、遠慮せず早に関西外大教職センターの先生に連絡してください。卒業生のみなさんには、「おめでとう」、「ありがとう」と申し上げます。

Congratulation!

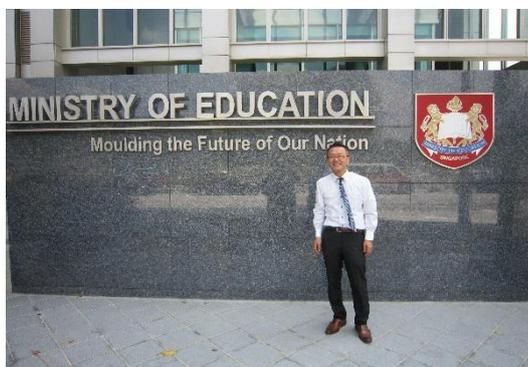
“Contribute on Drastic Change for English Education!”

“Be conscious of Visualizing in English Class!”

“Make much of Output English Education!”

“Explore, Create and Perform!”

(Takahiko Nishimura)



(The Singapore Ministry of Education)

Congratulation on your graduation!

Tokyo Olympic Game will be held in 2020.

We have a big wave for English educational reform for Tokyo Olympic in Japan. Ministry of Education and each prefecture will change English education strongly and drastically. I would like you to ride on the big wave and contribute on drastic change as a Kansai Gaidai graduate

In February this year I visited the Singapore Ministry of Education and National Institute

of Education. As you know Singapore Education is well-known in the field of PISA (Program for International Student Assessment) all over the world. Singapore Ministry Education has strongly focused on English Education (TESL, TEFL, TESOL) and teachers' training in the NIE (National Institute of Education), which is only one institution in Singapore in order to unite multi-lingual and cultural nations. Singapore Education has three mottoes: "EXPLORE, CREATE and PERFORM". I got the "Power of Singapore Education".

In Japan also we should have drastic English educational reform. That is to say, it is necessary for us to get rid of "Grammar Translation Method" and to make much of "Output English Education for presentation". To get our drastic change, from my point of view, first all we have to do is to "Be conscious of Visualizing". In the field of TESL, TEFL and TESOL all over the world, people try to study for expressing their own opinions in English through visualizing. Japanese Ministry Education also hopes you to put the TESOL strategies into the English education in Japan. It prepares a lot of oversea programs for English teachers of the young generation.

I hope you will contribute on English education with your world-wide point of view. Think globally and act locally. Think and act glocally.

Finally, please keep my mottoes in your mind. Congratulation on your graduation!

A: Advance (Step forward anytime and anywhere)

B: Believe in yourself

C: Continue to challenge

D: Don't compare with others. Don't be afraid of making mistakes

E: Encourage

「おめでとう！ この春、教員になれるみなさんへ！」

短期大学部 教授 明石一朗

難関である教員採用試験を突破し、今春から教員になる学生のみなさん！

おめでとうございます。あと 1 ヶ月もすれば、子どもたちや保護者、学校の教職員の方々との出会いが待っていますね。何事もはじめが肝心です。素敵な出会いのスタートであってほしいと願います。

ところで、保護者の子どもへの共通の思いは、「元気で、かしこく、やさしく、人に迷惑かけずに、大きくなって食いはぐれのないこと」でしょうか。子どもの自己実現と社会貢献、そして、将来の経済的自立を望んでいます。

ある「教員に関する意識調査」によれば、教員に対して保護者が望んでいることの中で、最も多かったのは「教育への責任感や使命感」(68.7%)、次いで「非行やいじめなどの問題行動への適切な対応」(58.0%)、「社会人としての一般常識」(50.8%)、「公正・適正な評価・

評定」(49.7%)、「授業力や教科などの専門知識」(45.7%)などの順になっています。

意外にも保護者が教員の専門知識に期待する割合は50%以下で、それよりも責任感や使命感、一般常識など、大人のお手本として、子どもたちを指導してほしいというのが保護者の本音のようです。

ほとんどの教員は、大学などを卒業後、新任教員になるか、非常勤講師を経て採用された人が大多数です。ある意味、学校という職場しか知らないで、世の中の「常識」とかい離する傾向もあります。20歳代で「先生、先生」と呼ばれ、知らないうちに謙虚さを失い「独善」や「傲慢」が芽生えやすい職業でもあります。

教育職は、子どもの「命」に向き合い、日々の成長を促す崇高な職業です。常に謙虚で誠実であってほしいと願います。そのためには、「日々初心」の構えで子どもや保護者、教職員と接し、信頼的人間関係を深めることが大切です。どの子どもも「私は、〇〇先生が大好き!」とってくれる、そんな素敵なお先生になってください。学校からのうれしいお便りを待っています!

シリーズ⑥ 「心の窓を少し開いて!」

【教育改革のキーワード】

グローバル社会において異文化交流などの多様性が重視される中、これからの教育のキーワードは、「自立」と「共生」です。

この間、教育潮流は、①画一と受身から参加や体験学習、②個性や能力の尊重、③社会性と国際性の涵養、④多様性と選択の重視、⑤「ゆとり」から「学力」と「実り」、⑥「癒し」から「和み」などへとシフトしてきました。

学校教育は、保護者や地域等からの信頼・協力や行政機関等の支援があって取り組めます。今、教育は「競争」と「選択」を踏まえながらも「自立」と「共生」を基調として大きな前進が求められています。

そうした中で、教師に求められる資質は「柔軟性」と「開放性」と「許容性」です。

教育は、子どもと教師、子どもと子ども、教師と保護者・地域の方々、教師と教師などの良好な人間関係の上に成り立つ営みです。

教師の指導力向上を図り、「効果のある」学校づくりを進めるためには、次のことが大切と考えます。

○ 学校組織を束ねる

- ・まず、学校長が揺るぎない学校教育方針を示し教育理念や教育観を貫く。
- ・築いてきた学校の良き伝統と現状の教育課題分析、保護者・地域の声を反映し、過去の教育成果の継承と未来への目標や達成値を示す。
- ・教職員のコミュニケーションを培い、学校組織の一体化を促進させる。

- 授業研究を充実させる
 - ・力のある先生は校内外研修、とりわけ「研究授業」（授業評価）で育つ。
 - ・日々の授業実践（わかりやすい授業、楽しい授業）を教職員間で交流しあう。
 - ・管理職は、教職員に自己研鑽の機会、刺激を受ける場などをつくる。
- 前年踏襲主義を克服する
 - ・3年以上の取り組みは、基本的に転換し、新たな体制と方針を打ち出す。
 - ・「ぬるま湯環境」からの脱却は、本音で語り集いあう教職員集団の形成から始まる。（マンネリ・油断・諦めの克服）
 - ・若手教師とベテラン教師のチームの組み合わせで指導力向上を図る。
 - ・子どものために「汗」をかくことをいとわない学校文化を築く。

編集後記——教職教育センターより——

啓蟄（けいちつ）を迎え、吹いてくる風にも春のにおいが漂うようになり、外に出ると青空が美しく、心地が良い時期となりました。

卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。多くの思い出が残るこの学び舎を巣立つ皆さんには、それぞれ万感の思いがあるのではないのでしょうか。

今回の羅針盤は、先生方から卒業生の皆さんに向けてのお言葉をいただきました。この言葉を胸に4月から皆さんそれぞれのステージで頑張っていたいただきたいと思います。また、在学生の皆さんは残りの学生生活を有意義に過ごす、参考としていただければと思います。

※啓蟄・・・二十四節気の一つ。このころから冬ごもりをしていた虫が穴から出てくるといわれる。